



松江赤十字病院における病診連携に関わるアンケート結果

問1. 所在地	診療科	年代
橋北 24	内科系 37	20歳代 1
橋南 21	外科系 11	30歳代 4
市外 19	歯科 16	40歳代 8
		50歳代 17
		60歳代 22
		70歳代以上 12

問2. 当院を紹介される理由	項目	回答	橋北	橋南	市外
松江赤十字病院の医療内容を信頼している	はい	23	20	15	
	いいえ	0	0	0	
	どちらとも言えない	1	1	4	
	不明	0	0	0	
患者・家族の希望	はい	22	18	12	
	いいえ	1	0	1	
	どちらとも言えない	1	3	6	
	不明	0	0	0	
患者のお住まいとの距離	はい	15	10	5	
	いいえ	1	2	6	
	どちらとも言えない	8	9	8	
	不明	0	0	0	
面識のある医師が存在している	はい	12	20	10	
	いいえ	2	0	6	
	どちらとも言えない	10	1	3	
	不明	0	0	0	
信頼できる医師・スタッフがいる	はい	20	21	13	
	いいえ	1	0	2	
	どちらとも言えない	3	0	4	
	不明	0	0	0	
紹介するに適した診療科がある	はい	23	21	18	
	いいえ	0	0	0	
	どちらとも言えない	1	0	1	
	不明	0	0	0	
他に紹介する医療機関がない	はい	19	13	14	
	いいえ	4	5	4	
	どちらとも言えない	0	0	0	
	不明	0	0	0	
医療設備が充実している	はい	21	20	16	
	いいえ	0	0	0	
	どちらとも言えない	3	1	3	
	不明	0	0	0	
受診日までの待機日数が短い	はい	14	10	9	
	いいえ	1	3	3	
	どちらとも言えない	9	8	7	
	不明	0	0	0	

問3. 受診予約の取りにくい診療科	問4. 受診予約の方法について
糖尿病・内分泌内科 0	診察予約もまめネットを利用したい 7
血液内科 0	現在のFAX予約で満足している 43
消化器内科 5	まめネットを利用したことがない 14
泌尿器・腎臓内科 0	
総合診療科 0	
精神神経科 5	
呼吸器内科 0	
乳癌外科 0	
循環器内科 0	
小児科 0	
整形外科 0	
心臓血管外科 0	
皮膚科 0	
眼科 0	
耳鼻咽喉・頭頸部外科 0	
放射線科 0	
歯科・口腔外科 2	



アンケート自由記載意見

1. 紹介について

- ・退院時でも、実際に行った治療内容を紹介元に文書で知らせて欲しい。退院後に紹介元以外の医院に行く場合や施設に入った場合、また、治療して退院(医院に来ない)した場合などに、それが省かれていることがあるように思う。
- ・どのようにフォローすれば良いか返書に書いていない医師がおられ、困る事があった。
- ・お世話になっております。今後も地域医療の中心としての役割をよろしく願っています。

2. 共同利用について(手術室、高額医療機器、共同病床利用)

- ・高額医療機器の利用について、頭部MRI、MRCPをもっと利用したいと思います。

3. 救急外来受診、緊急入院について

- ・(救急外来について) 紹介して断られたことがありません。此方が紹介を迷う例でも対応して頂いている。

4. 当院主催の研修会について

- ・(研修会の開催時間について) 平日夜の時間ですと20時以降でないかと参加しにくいです。
- ・オンラインでの研修会が、ありがたいです。

5. その他自由意見

- ・このアンケート方式の方が良いと思います。ありがとうございます。

今年も「松江赤十字病院における病診連携に関わるアンケート」にご協力いただきありがとうございました。今回のアンケートはQRコードを用いてインターネット上での回答形式で実施させていただきました。いただきましたご意見・ご要望を参考に改善に努めてまいりますので、今後とも連携のご協力をお願い申し上げます。

問5. 報告書・返事について	項目	回答	橋北	橋南	市外
「受診のお知らせ」の返信は適切な期間で届いていますか	届いている	15	14	14	
	届いていない	7	7	3	
	普通	1	0	2	
	あまり届いていない	1	0	0	
	全く届いていない	0	0	0	
	不明	0	0	0	
「経過報告書」「診療情報提供書」の返信は適切な期間で届いていますか	届いている	12	11	15	
	届いていない	9	9	3	
	普通	3	0	1	
	あまり届いていない	0	0	0	
	全く届いていない	0	0	0	
	不明	0	1	0	

問6. 共同利用について

項目	回答	橋北	橋南	市外
手術室を利用していますか	利用している	0	0	0
	たまに利用している	0	0	0
	利用していない	24	21	19
	不明	0	1	0
高額医療機器を利用していますか	利用している	3	5	0
	たまに利用している	2	4	0
	利用していない	19	12	19
	不明	0	0	0
病床を利用したいですか	利用したい	1	0	1
	使えるのであれば利用したい	10	11	11
	どちらでもない	0	0	0
	あまり利用したくない	13	9	7
不明	1	1	0	

問7. 救急外来の対応について

項目	回答	橋北	橋南	市外
救急外来受診の対応について満足していますか	満足	14	12	5
	やや満足	4	3	3
	普通	6	5	8
	あまり満足でない	0	1	0
	全く満足でない	0	0	0
	不明	0	0	3
緊急入院の対応について満足していますか	満足	13	12	6
	やや満足	3	5	2
	普通	9	4	8
	あまり満足でない	1	0	0
	全く満足でない	0	0	0
	不明	0	0	3

問8. 研修会の開催について

項目	回答	橋北	橋南	市外
赤十字病院で開催している研修会に参加していますか	参加している	1	0	0
	参加したい	1	1	0
	たまに参加している	9	6	5
	あまり参加していない	6	9	6
	参加していない	7	5	8
	不明	0	0	0
どのような研修会を希望されますか(複数回答あり)	最近の治療動向	11	12	7
	症例検討	8	8	0
	一般的疾患の講義	6	8	7
	その他	0	0	0
	その他	0	0	0
	不明	0	1	8

れんけいだより



新年のご挨拶



院長 大居 慎治

新年明けましておめでとうございます。

日頃当院の医療提供や運営につきまして多大なご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の流行も4年経ちました。献血者の血清による調査では半分以上の感染抗体(N抗体)を保有しているところから国民の半分は新型コロナに感染したものと考えられ、今後は小さな波を繰り返しながら終息していくものと推測されています。一方ポストコロナの時代にはこの4年の間にも進んでいた少子高齢化の問題に直面することになります。

昨年の冬、第8波の後に在宅復帰困難な高齢者の方々が増え、当院は満床に近い状態が続き、コロナ以外の疾患の患者さんの入院に支障をきたす事態になりました。そして救急受け入れ制限をせざるを得なくなったことは救急病院としては痛恨の極みでした。そのよう

な中、松江・安来医療圏の病院連携会議などを通じて転院を円滑にするための仕組みづくりを訴えてまいりましたし、診療所や介護施設、看護・介護・福祉の専門家による懇話会を開催し、現場での連携上の問題点を検証し改善するように努めてまいりました。地域に向向いて開催する健康講座の中で地域包括ケアの必要性についても触れて住民の方々にもご理解をいただく機会をいただいております。今後も当院は断らない医療を提供する一方、このような取り組みを通じてよりよい医療介護連携体制の構築に向けて努力していく所存です。

当院は島根県東部の唯一の三次救急を担う急性期病院として、これまで同様に安心・安全で高度な医療の提供をするためにますます機能を充実させていきたいと考えております。

また働き方改革の真只中にありますが、医療従事者の確保・育成はもとより、職員のコミュニケーションを大事にし、働きやすい職場づくりを通じて地域に信頼される医療を届けてまいりますので今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今年こそは新型コロナウイルス感染症の流行が終息し、皆様に幸多き年となりますようお祈り申し上げます。



第17回 地域医療従事者スキルアップセミナー

ACP(人生会議)のはじめかたーについて考えようー



副院長兼第一産婦人科部長 真鍋 敦

10月28日に第17回地域医療従事者スキルアップセミナーが『ACP(人生会議)について考えてみませんか』をテーマに掲げて開催されました。第1部の口頭発表7演題にもACP(アドバンス・ケア・プランニング)に関連した内容が含まれており、地域医療においてACPの重要性・必要性が認識されていることを共有できました。

ACP(人生会議)とは、「人生の最終段階の医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合うプロセス」(2018年、厚生労働省)のことで、メディアに取り上げられたり市民講座などが行われており、ACPという言葉聞いたことがないという方は少ないと思いますが、医療の現場ではACPが市民に普及したと実感できることは少ないのではないのでしょうか。

ACPの必要性・重要性は理解しているけれど、いつ、どのようにして始めればよいかかわからないという医療従事者は多いと思います。「どのように最期をむかえるのか考えましょう」というと、そんな縁起でもないとい

って敬遠されがちです。「どのようにして生きてゆくのか考えましょう」というスタンスが大切だと思います。雑談の中で「何が好きなのか」、「何を大切にしているのか」話し合うことから始めると良いのではないのでしょうか。そして最初から決めることにこだわらないことが大切だと思います。今回「もしバナゲーム」を体験していただいたので、是非ACPについて話し合うきっかけづくりに役立ててください。

当院は救命救急センターを有する急性期病院です。重篤な病態で搬送される方・そのご家族等に終末期の医療・ケアについて決めていただく場面が多々あり、重症メディエーターや多職種スタッフで構成された臨床倫理コンサルテーションチームによる支援を行っています。家庭やかかりつけの医療・ケア施設で行われたACPが救急医療の現場に引き継がれること、救急医療施設で更新されたACPがかりつけの医療・ケア施設に引き継がれることが今後の課題であり、医療・福祉・教育の場面においてACPの普及・啓発を行い続ける必要があると思います。

このような取り組みにより国民にACPの普及・啓発が進んだとしても、少子高齢化が進むと、人生会議を行うメンバーがいなかったACP難民が問題となるのではと危惧しています。



新任医師紹介



歯科口腔外科医師

かねだ かずや
金田 和也 [令和5年12月1日付け]

12月より歯科口腔外科に赴任して参りました金田和也と申します。卒後3年目で、まだまだ勉強中ではありますが、地域医療に貢献できるよう、精一杯働かせていただきますのでよろしくお願いいたします。

第20回 松江赤十字病院地域連携交流会

第20回 地域連携交流会に参加して



副院長兼地域医療連携室長 内田 靖

令和5年11月1日にホテル一畑にて第20回松江赤十字病院地域連携交流会が開催されました。当初、膝を交えた交流会を8月上旬に企画しておりましたが、今回もコロナ感染の影響にて、研修会と情報交換会の実施となりました。残念ながら他の行事と重なったこともあり、参加者は昨年度よりやや少ない、院外から31名、院内から医師30名を含む54名となりました。

一方、今年度はこれまでと異なり、松江医師会との共同主催で開催させていただきました。病院からの一方向の情報提供でなく、松江医師会の活動内容について、細田真司松江医師会会長から病院スタッフに対してご報告いただきました。双方から情報提供することで、より一層相互理解が深まった交流会でした。

研修会では、串山義則消化器内科部長、入澤クリニック院長松本和也先生のお二人から、松江医師会と基幹病院で連携して活動している「松江市膵がんプロジェクトについて」、福田弘毅脳神経内科部長から「一次脳卒中センターコア施設と脳卒中患者相談窓口設置について」、最後に大居慎治院長から「ポストコロナの地域医療連携について」ご講演いただきました。

コロナ禍を過ぎ、交流会だけでなく地域医療連携も、その在り方に大きな変化が求められていると感じます。高齢化の進むこの地域には様々な課題がありますが、地域の先生方と連携を深め一緒に解決していければと思います。今後ともよろしくご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。



看護師長 安達 香奈子

11月1日に開催された地域連携交流会に初めて参加させていただきました。

研修会では、当院の串山消化器内科部長、入澤クリニック松本院長より、『松江市膵がんプロジェクト』についての講演がありました。膵臓がんの死亡率は、島根県では全国的にみても女性は高く、膵臓がんを早期発見するために立ち上げられたとのことでした。「プライマリケア医と基幹病院とがワンチームとして取り組んでいきたい。」との言葉に、島根県の地域医療を支え

ておられる熱い想いを感じました。

次の福田脳神経内科部長による「一時脳卒中センターコア施設と脳卒中患者相談窓口設置について」の講演では、脳卒中患者・家族、その周囲の方々の生活を支えるために、当院が重要な役割を担っていることを再認識しました。当院院長による「ポストコロナの地域医療連携について」の講演では、慌ただしく感染症患者を受け入れるための準備をしたことや、病棟内でのクラスター発生、転院調整など改めてこれまでを振り返る機会となりました。現在病棟でも療養支援を強化していますが、当院が急性期病院としての役割を果たすために、行政・地域と連携することが重要であると再認識できました。

退職者

●令和5年11月30日付

歯科口腔外科医師 宮内 瑠依

●令和5年12月31日付

第一循環器内科医師 迫 恒志

お世話になりました

